

Oracle(R) Hyperion Performance Scorecard

Readme

リリース11.1.2.3.000

Copyright (C) 2013, Oracle and/or its affiliates.All rights reserved.

原著者: EPM Information Development Team

OracleおよびJavaはOracle

Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations.As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007).Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

目次:

[目的](#)

[新機能](#)

[インストール情報](#)

[サポートされているプラットフォーム](#)

[サポートされている言語](#)

[サポートされているこのリリースへのパス](#)

[このリリースで修正された問題](#)

[既知の問題](#)

[ヒントとトラブルシューティング](#)

[ドキュメントの更新事項](#)

[ドキュメントのフィードバック](#)

目的

このドキュメントには、このリリースのOracle Hyperion Performance Scorecardに関する重要な最新情報が記載されています。Performance Scorecardをインストールする前にこのReadmeをよくお読みください。

新機能

インストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関連したこのリリースの新機能については、*Oracle Enterprise Performance Management System* Readmeのこのリリースの新機能に関する項を参照してください。

リリース11.1.2.0、11.1.2.1または11.1.2.2からアップグレードする場合は、Cumulative Feature Overviewツールを使用して、これらのリリース間で追加された新機能のリストを確認します。このツールにより、現在の製品、現在のリリース・バージョンおよびターゲット実装リリース・バージョンを識別できます。1回のクリックで、ツールは現在とターゲットのリリース間に開発された製品機能の概要説明のカスタマイズされたセットをすばやく生成します。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

リリース11.1.2.1.000の新機能

インストール、アーキテクチャおよび配置の変更に関連したこのリリースの新機能については、*Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System* インストールReadmeの新機能に関する項を参照してください。

リリース11.1.2.0.000の新機能

メジャー・テンプレートの上書きプロパティのリセット

デフォルトでは、メジャー・テンプレートに行った変更は、メジャー・テンプレートによって生成された次元メジャーに適用されます。ただし、これらの次元メジャーは個別に編集し、メジャー・テンプレートで定義されたプロパティを上書きすることもできます。上書きプロパティのリセット・オプションを使用して、割り当てられた従業員、頻度、期間累計関数など、元のメジャー・テンプレート設定に戻すことができます。これ

により、個々の次元メジャーに行った上書き内容がすべて削除されます。詳細は、『Oracle Hyperion Performance Scorecardユーザー・ガイド』の第7章を参照してください。

外部データ・ソースの編集

以前のリリースでは、Essbaseデータベースを移行した場合、ターゲット環境の正しいEssbaseアプリケーションおよびデータベースを参照するためには、ターゲット・サーバーのHPS_EXTERNAL_DATASOURCEデータベース・テーブルを編集する必要がありました。この修正を、アプリケーションの管理機能を使用して、外部データ・ソース接続を変更することで実行できるようになりました。また、場合によっては、接続を編集してEssbaseデータベースおよびアプリケーションを変更します。詳細は、『Oracle Hyperion Performance Scorecard管理者ガイド』の第4章および第5章を参照してください。

翻訳サポート

このリリースでは、英語以外の言語がサポートされています。すべてのEPM System製品でサポートされている言語のリストは、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Systemの動作保証マトリックスに含まれています。これは、<http://www.oracle.com/technology/products/bi/hyperion-supported-platforms.html>に掲載されています。

インストール情報

Oracle Enterprise Performance Management System製品のインストールに関する最新情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストールおよび構成*Readme*を参照してください。EPM System製品をインストールする前に、この情報をよく確認してください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System製品のシステム要件とサポートされているプラットフォームに関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスでスプレッドシート形式で提供されるようになりました。このマトリックスは、Oracle Technology Network (OTN)の「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System製品でサポートされている言語に関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスの「Translation Support」タブでスプレッドシート形式で提供されるようになりました。このマトリックスは、OTNの「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています:

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされているこのリリースへのパス

EPM Systemは、次のリリースからリリース11.1.2.3にアップグレードできます:

注意: 詳細なアップグレード手順は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストールおよび構成ガイドのEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表1.サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース11.1.2.3へ
11.1.2.x	リリース11.1.2.3にメンテナンス・リリースを適用します。 Oracle Hyperion Financial Close Managementの場合、メンテナンス・リリースの適用はリリース11.1.2.1および11.1.2.2からのみサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース11.1.2.3にアップグレードします。
リリース11.1.1.0.xから11.1.1.3.x	リリース11.1.1.4にメンテナンス・リリースを適用してから、リリース11.1.2.3にアップグレードします。
リリース9.3.3.x	リリース11.1.2.2にアップグレードし、リリース11.1.2.3にメンテナンス・リリースを適用します。
複数のリリースが含まれている環境。1つのOracle Hyperion Shared Servicesのインスタンスが含まれている環境、または2つのShared Servicesのインスタンスが含まれている環境	<i>Oracle Enterprise Performance Management System</i> インストールおよび構成ガイドのEPMシステム製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する説明を参照してください。

注意: リリース9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x (Oracle Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6、9.3.1.7を除く)または11.1.1.xから始める場合、最初にリリース11.1.1.3にアップグレードしてから、リリース11.1.1.4にメンテナンス・リリースを適用し、11.1.2.3にアップグレードすることをお勧めします。それよりも前のリリースから開始する場合は、開始リリースからのアップグレードを直接サポートする最高レベルのリリースにアップグレードすることをお勧めします。

EssbaseとShared Services間のセキュリティの同期は、Essbaseリリース9.3 (リリース9.3.1.4.1から開始)で削除されました。ただし、EssbaseとOracle Hyperion Shared

Servicesリリース11.1.1.3の間では、現在もセキュリティ情報が同期化されます。そのため、Oracle

Essbaseリリース9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6、9.3.1.7のいずれかを使用している場合は、まずすべての製品をリリース9.3.3にアップグレードしてからリリース11.1.2.2にアップグレードし、リリース11.1.2.3にメンテナンス・リリースを適用する必要があります。

このリリースで修正された不具合

この項では、リリース11.1.2.3.000で修正された不具合を示します。以前のリリース間で修正された不具合のリストを確認するには、Defects Fixed Finderを使用します。このツールでは、ユーザーが所有している製品と、現在の実装リリースを識別できます。1回のクリックで、ツールは修正された不具合の説明とその関連プラットフォームおよびパッチ番号に関するカスタマイズされたレポートをすばやく生成します。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 16178801 -
HPSWebReportsの監査証跡ウォッチャを無効にできます。HPSCfg.propertiesで、"hyperion.hps.audit_trail.is_required"エントリを編集して有効または無効にできます。デフォルトでは、監査証跡ウォッチャは"true"に設定されます。HPS起動シーケンスでウォッチャ・クラス名、間隔および有効/無効状態をHPSWebReportsログ内で表示できます。

注 監査証跡ウォッチャは、クラスター・トポロジにPerformance

意: Scorecardを配置する場合、またはスコアカード・テンプレート機能を使用している場合は無効にできません。ネイティブETLのインポートなど、Performance Scorecardデータベースに対して直接行った変更は、HPSWebReportsサーバーを再起動するまでHPSWebReportsに反映されません

- 16042140 -
スコアカードの要素の行が2回表示されます。特定の状況では、Internet Explorerを使用している場合に、「スコアカード詳細」ページのスコアカード要素行が2回表示されることがあります。
- 15974733 -
一意のUUIDではなく冗長なUUIDが生成されるため、アプリケーションの移行処理は失敗しました。このため、冗長なUUIDを検出し、移行処理の開始時にUUIDを自動修正します。これにより、ターゲット・サーバーのインポート・プロセスが向上し、移行処理中に監査証跡ウォッチャが自動的に無効になります。
- 15959544 -
ブラウザ・ビューで、「メジャー」ドリル・ダウン・ウィンドウがスコアカード・レポートのバックグラウンドで開いている場合でも、戦略マップに戻れるようになりました。
- 14688454 -
カスタム外部レポートURLパラメータは、等号の自動追加によって破損しました。「スコアカード・パフォーマンス・レポート」上のWebページ制限の動作が正しくありませんでした。次の制限動作が修正されています：
 - 表示ナビゲーション・ツリーの戦略ツリー・スコアカード・セクション
 - 表示ナビゲーション・ツリーの責任スコアカード・セクション
 - 表示ナビゲーション・ツリーの従業員スコアカード・セクション
- 14513620 -
ロールのWebページの制限を設定した後、セキュリティ設定表示ナビゲーション・ツリーの戦略ツリー・スコアカード・セクションによってブラウザ・ビューの戦略ツリーが制限されるため、正しくない結果が生成されます。ただし、このオプションは、レポート・カテゴリの戦略スコアカード・レポートも制限します。
- 13997461 -
データ変更がない場合は再アラートが機能しません。アラート・メッセージは、データベースに変更がない場合はトリガーされません。
- 13996835 - メジャー・トレンド表は、頻度外の日付のみ示します。
- 13935282 -
スコアカードがアクセス可能な場合のメジャー・アクセスが正しく機能しません。スコアカード・テンプレートを使用してメジャーがスコアカードへ追加された場合、問題は、メジャーとスコアカードの関連に存在することがあります。この問題はメジャー"「一部」タブ"で発生することがあり、スコアカードがアクセス可能でない場合にすべてに対するアクセスを拒否メジャー・アクセス権限設定オプションを使用している場合は、ユーザーにスコアカードへのアクセス権を付与するとすぐにユーザーはメジャーにアクセスできます。
- 13925499 -
Alerterは、24時間ごとに1回実行するように設定されている場合でも、電子メール通知を1時間ごとに1回送信します。
- 13646367 -
ネイティブETLエクスポート・ユーティリティは、手動で入力された先日付のメ

ジャー・データをエクスポートしません。元のMDATAは、最も古い日付から今日の日付までの日付範囲のデータのみエクスポートするように動作します。先日付のデータを含むすべての日付のすべてのデータをエクスポートするように変更されました。

注意: 手動で入力された頻度外データはエクスポートできません。

- 13635389 -
ネイティブETLエクスポート・ユーティリティは、SCD、SCEまたはSNR動作を使用してエクスポートする場合に失敗します。データベースに孤立オブジェクトが含まれる場合、スコアカード(SCE)、スコアカード要素(SCD)またはスコアカード範囲(SNR)のエクスポートは成功しません。これらの孤立オブジェクトをスキップし、警告メッセージをログに記録するように変更されました。
- 16218071 -
HPSWebReports用の単純な監査証跡ウォッチャを導入します。HPSConfig.propertiesで、hyperion.hps.data_watcher_service.class_nameエントリをcom.hyperion.pmd.hps.service.datawatcher.AuditTrailWatcherWithoutCacheSynchronizerに編集して、単純な監査証跡ウォッチャを使用できます。(デフォルト設定はcom.hyperion.pmd.hps.service.datawatcher.AuditTrailWatcherWithCacheSynchronizerです)。ウォッチャ・クラス名、間隔および有効/無効状態は、HPS起動シーケンス中にHPSWebReports.logで確認できます。

注 単純な監査証跡ウォッチャは、Performance

意: Scorecardをクラスター・トポロジに配置する場合には使用しないでください。ネイティブETLのインポートなど、Oracle Hyperion Performance Scorecardデータベースに対して直接行った変更は、HPSWebReportsサーバーを再起動するまでHPSWebReportsに反映されません

- 13117151 -
ログインが従業員に関連付けられていない場合、ノート作成者名が<login_id>@<Authentication_Provider>として表示されます。例:
従業員に関連付けられていないuser1がMSAD認証プロバイダを使用してHPSにログインし、ノートを作成すると、ノート作成者はuser1@MSADと表示されます。
- 15974733および13441777 -
一意のUUIDではなく冗長なUUIDが生成されるため、アプリケーションのプロモーションは失敗しました。このため、冗長なUUIDを検出し、移行処理の開始時にUUIDを自動修正します。これにより、ターゲット・サーバーのインポート・プロセスが向上し、移行処理中に監査証跡ウォッチャが自動的に無効になります。
- 16203801および16303556 - 次のシナリオに基づく移行処理は失敗します:
DBSERVERおよびAPPSERVERの時間が同一でない場合。移行するデータ変更がない場合。

既知の問題

このリリースで注意が必要な既知の問題は次のとおりです。

- 14142422 -
複数值ターゲットを使用している場合、表示されるレポートにアライメントの問題がある場合があります。
- 6956515 -
次元名にはヘブライ文字を使用できません。そうした場合は、Essbaseデータベースの作成に使用されるスター・スキーマを生成できなくなります。
- 7650524 - Oracle Hyperion Shared Servicesでグループに割り当てられたユーザーは、指定したとおりに電子メールを受信できない場合があります。これを回避するには、グループを介して間接的にユーザーをプロビジョニングしないでください。
- 7171918 -
メジャー・テンプレートを評価するパフォーマンス・インディケータの範囲を定義する式にはequal操作を使用できません。
- 10399027 -
プリファレンス設定の変更が原因で、メジャー・パフォーマンスのエクスポートのオプションを実行できません。
- 9665927 -
ナビゲーション・ツリーで、左側の選択ペインにマップ要素をドラッグすると、戦略マップ・ツリーからマップ要素が削除されます。
- 11804670 - Performance ScorecardのコンテンツをWORKSPACEに追加できません。
- 9073159 -
モデル・セキュリティおよびアプリケーション・モデル内のアーティファクトを検索できません。

ヒントとトラブルシューティング

- Performance Scorecardで作成されたカスタム・セキュリティの役割をShared Servicesの多数のユーザーに適用するには、Shared Servicesでユーザーを作成した後、Performance Scorecardで「Shared Servicesとの同期」オプションを選択してセキュリティの役割と従業員レコードをそれらのユーザーに自動的に割り当てます。
- AlerterをWebアプリケーション・サーバー・クラスタに配置するには、Alerterのインスタンスを1つ使用して電子メール通知の繰り返しや不要な電子メール通知を避けます。

- データベース、次元、メンバー、別名または次元メジャー・テンプレートに名前を付けるときは、制限された名前や文字を使用しないでください。不正な名前と文字のリストについては、『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition リリース11.1.2.0.00 管理者ガイド』を参照してください。
- アプリケーション・サーバーをアンインストールまたは更新する前に、イニシアチブのすべての添付ファイル、従業員プロフィールおよびノートに加えて、ステータス記号をバックアップしてください。『Oracle Hyperion Performance Scorecard, Fusion Edition リリース11.1.2.0.00 管理者ガイド』を参照してください。
- 戦略ツリー、責任マップおよび因果関係マップを作成する前に、アプリケーション・フレームワークを指定してください。これにより、デフォルト・マップ要素階層および順序が判別されます。
- メジャーまたはスコアカード範囲が添付されているパフォーマンス・インディケータを削除しないでください。
- 同じコンピュータで複数のブラウザ・セッションを同時に開かないでください。
- データを失わないように、「保存」をクリックしてからすべてのページを終了してください。

ドキュメントの更新事項

EPM System製品ドキュメンテーションへのアクセス

各EPM System製品ガイドの最新版は、OTN WebサイトのEPM System Documentation領域(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)でダウンロードまたは参照できます。また、EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもでき、ここにはEPM Supported Platform Matrices、My Oracle Supportおよびその他の情報リソースへのリンクも含まれています。

配置関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Webサイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個々の製品ガイドは、Oracle Technology Network Webサイトでのみダウンロードできます。

PDFからのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDFファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策:

コード・スニペットをHTMLバージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

ドキュメントのフィードバック

製品ドキュメントに関するフィードバックは、次の電子メール・アドレスに送信してください:

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトのEPM Information Developmentをフォローしてください:

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。EPM System製品では、アクセシビリティ機能がサポートされており、それらの説明は製品のアクセシビリティ・ガイドに記載されています。このガイドの最新版は、Oracle Technology NetworkのOracle Enterprise Performance Management Systemドキュメント・ライブラリ(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)で入手できます。

また、このReadmeファイルはHTML形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。